

箕面市地域公共交通活性化協議会
第2回 路線バス網再編検討分科会 会議録

1. 日 時

平成30年3月2日（金） 午前10時00分～午前11時50分

2. 場 所

箕面市役所 本館2階 特別会議室

3. 出席者

（副会長）

- ・大阪大学大学院工学研究科助教 猪井博登

（委 員）

- ・阪急電鉄株式会社都市交通事業本部都市交通計画部副部長 越智厚
（代理出席）都市交通計画部課長 岡田善光
- ・阪急バス株式会社自動車事業部副部長兼営業計画課長 野崎敏
（代理出席）営業計画課係長 田中祥敬
- ・北大阪急行電鉄株式会社延伸事業部調査役 三神浩平
- ・大阪高速鉄道株式会社南伸準備室課長 岡本孝司
- ・大阪府池田土木事務所地域支援・企画課企画グループ長 澤村仁
（代理出席）企画グループ課長補佐 藤井充
- ・大阪府箕面警察署交通課長 杉本信吾
- ・箕面市みどりまちづくり部道路管理室長 波多野輝
- ・箕面市地域創造部交通政策室長 村上祥一
- ・箕面市健康福祉部健康福祉政策室長 松本茂
- ・箕面市地域創造部箕面営業室長 栗生勝成
（代理出席）箕面営業室参事 横田悠紀

（欠 席）

- ・大阪大学大学院工学研究科教授 土井健司
- ・近畿地方整備局大阪国道事務所高槻維持出張所出張所長 山本勇人
- ・公募市民 中尾佳生
- ・公募市民 中西昭弘

以上、委員15名のうち11名出席

4. 議 題

- （1）事業スケジュールの変更について
- （2）市民・利用者アンケート、OD調査の集計結果について
- （3）市民・利用者アンケートの分析に係るゾーン設定（案）について
- （4）OD調査、利用者・市民アンケートの分析の方向性について
- （5）その他

5. 議事要旨

(1) 事業スケジュールの変更について

【検討内容は次のとおり。】

○次回の分科会で分析結果を示すとのことだがスケジュールとして大丈夫なのか。

→タイトなスケジュールだが、今回の分科会で、「ゾーン設定」や「分析の方向性」を確認させていただき、それを踏まえて、次回の分科会で一定の分析結果を示したい。

○前回の協議会でも再編実施計画は事業者にとって制約となるため、実施計画よりも、形成計画の内容に重点を置くべきと意見したが、形成計画を平成30年度に作成するというのは、その後、実施計画を作成するという前提なのか。

→平成30年度末に形成計画を作成し、平成31年、32年度で実施計画の作成を考えている。ただ、前回の協議会でもご意見いただいております、形成計画の作成を進める中で、実施計画の作りについてもご議論いただきたいと考えている。

(2) 市民・利用者アンケート、OD調査の集計結果について

【検討内容は次のとおり。】

○市民アンケートのサンプル数としては、市の人口の約2.1%あり、統計学的には有効であり、信頼度のあるデータである。バスに興味のある方や、各家庭の家長が回答したと思われることから、年代としては少し高い傾向があるが、全般的には、社会学的にも精度の高い調査と言える。

○アンケートの中で、北急延伸後の移動では、(仮称)新箕面駅の需要が高いが、バス路線再編の必要な行き先としては、千里中央が高くなっており、このギャップは今後分析していくのか。

→アンケート設問中、北急延伸後の移動では、鉄道延伸に伴う新駅に絞った移動意向を問うており、2つの新駅のうち、(仮称)新箕面駅への移動意向が高い結果が出ている。

→一方、バス路線再編後の必要な行き先では、バス路線再編後の既存駅も含めた必要な行き先を2選択で問うており、既存駅の千里中央でも移動意向の高い結果となっている。

→バス路線再編後の必要な行き先では、2選択であることから、駅への移動意向を整理する必要があり、今後分析を進めていく。

(3) 市民・利用者アンケートの分析に係るゾーン設定(案)について

【検討内容は次のとおり。】

○ゾーンごとのサンプル数は一定確保されており、十分に集計・分析できると考えている。

○バスの利用を考えると、千里中央や北千里の利用が多く、ゾーン設定にあたっては、千里中央や北千里の需要を考慮しているのか。

→千里中央や北千里は、市外駅であるため、駅勢圏に含まれる地域としては考慮していないが、STEP3で、現行のバス路線の運行状況、またSTEP4でアンケート結果による調整も考慮して、ゾーン区分を行っている。結果として、千里中央や北千里へのアクセスを考慮したゾーン設定としている。

○STEP2の駅勢圏の重複している地域は、アンケート結果から、どちらの駅勢圏ゾーンに含まれるか判断しているとのことだが、両駅への意向が均衡した場合、少しでも多い駅勢圏に含めるということで判断しているのか。

→駅勢圏が重複している地域では、基本的にアンケート結果から利用意向の高い駅を採用するが、概ねいずれかの駅に意向が偏っていたことから、結果、均衡した場合の判断はなかった。

○現行のバス路線を考慮しているとのことだが、バスの運行本数も考慮しているのか。

→路線バスの運行ルートを検討しているが、運行本数までは考慮していない。しかし、STEP 3 のみで判断するのではなく、現行バス路線や地形等で検討した上で、STEP 4 のアンケート結果も考慮して、ゾーン設定を行っている。

○幹線道路等を考慮する中で、今後、供用を控えている新たな都市計画道路も考慮しているのか。

→STEP 3 では、現在の道路や地形を考慮している。今後供用する萱野東西線や芝如意谷線は、(仮称)新箕面駅勢圏ゾーンに含まれており、地域特性を捉まえるためのゾーン設定の中では考慮していない。
→バス路線再編の運行ルートを検討する中で考慮する。

(4) OD調査、利用者・市民アンケートの分析の方向性について

【検討内容は次のとおり。】

○分析事項として、「①基礎情報」としては、アンケートの回答者属性で年齢等で偏りがあれば調整していくという意味がある。「②現在の交通行動」では、現在どれだけ利用しているのかを把握する。「③将来の交通行動」では、現在の交通行動に北急延伸後の行動変化を掛け合わせることで、延伸後の状況を考える。「④バス路線再編後の意向」では、路線バスが再編し、行き先や頻度が変わったときに、どのように行動が変わるのが分かると考える。

○主な構成としては、現状を把握して、北急延伸後の状況をアンケート結果で再現して、更に路線バスの再編による変化を考えていこうということである。

○また「③将来の交通行動」を補足すると、北急延伸によって、「行き先変化」と「交通手段の変換」の要因を仮定し、バス路線の再編を考えていくということ。理想では、需要予測のようなものが出て、事業者側で言うと、収入変化や運行頻度(サービスレベル)が分かればよいと考える。

○クロス集計(案)で、職業で分けているのは、職業によって交通行動が変わるであろうという仮説を立てて示していただいている。

○アウトプットレベルとしては、アンケートのクロス集計で出てくる数字が、理想的な公共交通網になり、現実と結果がギャップを生じることが多々ある。以前にオレンジゆずるバスでの意向調査では、10割乗るという答えが実際には8割であったことなどから、利用意向は過大な結果が出るので、オレンジゆずるバスの結果を考慮して、データ分析した方がよい。

→OD調査は、現況を把握する上で精度の高いデータである。

→利用者アンケートでは、OD調査では捉まえきれない将来の意向を捉まえることができることから、利用者アンケート結果を活用して、OD調査で得られる現況の交通行動から路線バスの利用予測を行っていきたい。

→オレンジゆずるバスの時は、実証運行で意向があっても乗らなかった路線は切っていったという経緯がある。今回のバス路線網の再編についても、実証運行を行った上で、路線を検討していきたい。

○理想像の公共交通網ができればよいが、現在、運転手不足が深刻化しており、仮に補助金などで補っていただいても、運転手不足で運行がおぼつかないことも考えられる。この件も踏まえて、今後議論していただきたい。

○「現状の交通行動」では、目的別を集計に入れているのに対し、「将来の交通行動」では、目的別が入っておらず、「将来の交通行動」も目的ごとに交通行動が異なると考えられる。「将来の交通行動」でも目的別の交通行動を分析すべき。

→目的別の交通行動についても分析を行う。

○延伸区間への利用意向として、「バス路線があれば利用する」と回答した人は路線バスの利用に限定されるが、単に「利用する」と回答した人の中でも路線バスで新駅を利用する人もいるので、処理の仕方を工夫した方がよい。

○「新駅の利用意向」と「再編後の必要な行き先」はどう処理するのか。

→新駅のみにターゲットを絞った場合、「新駅の利用意向」として需要を捉まえることができ、「再編後の必要な行き先」では、既存駅も含めた行き先の需要を捉まえるものと考えている。

→再編後の行き先は、バス路線の再編に係る問いなので、「③北急延伸後の交通行動」ではなく、「④バス路線再編の意向」に含まれる。

○「④バス路線再編の意向」では、バスの利用頻度は分析しないのか。

→分析していく。

○利用者アンケートのクロス集計で、交通転換を、「乗車バス停」と「新駅までの交通手段」で掛け合わせているが、どういうことか。

→現状の路線バスでの交通行動は、乗車バス停で捉まえるとして、ここに、将来の新駅までの交通手段を掛け合わせることで、交通転換が把握できると考えている。

○利用者アンケートなので、現在路線バスを使っていることが前提なので、新駅ができることによって、路線バスの利用が減るという前提であり、一定正しいとは思いますが、整理して検討した方がよい。

○運行本数の意向を確認することはどういう意図なのか。

→運行本数の設定にあたっては、運行本数の意向の確認と併せて、OD調査と利用者アンケートを活用して、利用予測を行い、運行本数を設定していく必要があると考える。

○アンケート票に記載されている「バス路線再編のイメージ」が、アンケート回答の制約条件（前提）になり、新駅までのバス路線しかないから、新駅へ行くという構図になることを懸念する。アンケート票のバス路線再編図はあくまでイメージであり、アンケートの分析を行った結果、「望まれているから新駅までのバス路線を検討する」というように整理すべき。

（５）その他

○特になし

以上